



1_「荻外荘」と復原整備事業の概要

2_「荻外荘」の基礎知識

2-1_「荻外荘」建設に至る背景

2-2_「荻外荘」の場所的価値

2-3_「荻外荘」の建築的価値

2-4_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5_「荻外荘」に関する新発見

3_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2_軸組の復原

3-3_内装の再現(客間が主)

3-4_復原の社会的意義

4_「荻外荘」の復原整備工事

4-1_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3_復原整備工事における製作物について



1_「荻外荘」と復原整備事業の概要

2_「荻外荘」の基礎知識

2-1_「荻外荘」建設に至る背景

2-2_「荻外荘」の場所的価値

2-3_「荻外荘」の建築的価値

2-4_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5_「荻外荘」に関する新発見

3_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2_軸組の復原

3-3_内装の再現(客間が主)

3-4_復原の社会的意義

4_「荻外荘」の復原整備工事

4-1_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3_復原整備工事における製作物について

豊島区に移築されていた荻外荘





談話室
(旧応接室)



応接間の竣工写真

左写真 昭和2年（1927）頃 日本建築学会建築博物館蔵



広間・廊下

4-1_豊島区での解体工事と部材の保管

・解体移築フロー



・プロジェクト開始前の想定課題

- ①解体前の部材取付位置が分からなくなる
- ②部材の収納保管場所が分からなくなる
- ③部材の整合性がとれなくなる

・プロジェクトの課題と対策

①解体前の部材の取付位置を明確にしておく

- ・ 3Dスキャナによる計測
- ・ 360度カメラによる撮影
- ・ 全部材の写真撮影
- ・ 番付札の取付

②部材の収納保管場所を明確にしておく

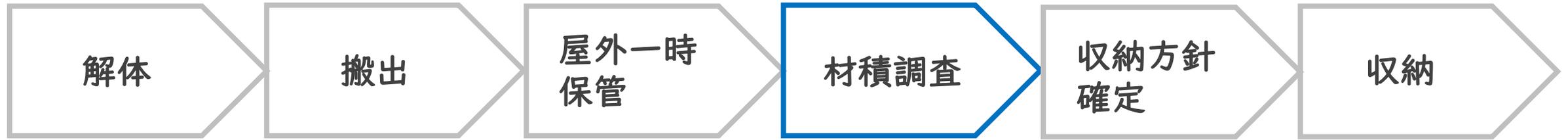
③部材の整合性を確保するようにする



①解体前部材の取付位置の明確化

リスク対策	実施方法	利点
3Dスキャン		<ul style="list-style-type: none">・部材の寸法、位置情報を正確に把握できる・BIMの作成等保全データにも活用できる
360度カメラ	<ul style="list-style-type: none">・解体フェーズ毎に撮影	<ul style="list-style-type: none">・ハンドリングしやすい・通常の写真より広い視角データを獲得できる
全部材写真撮影	<ul style="list-style-type: none">・部材搬入時に撮影	<ul style="list-style-type: none">・解像度の高い確実な部材記録を残せる・番付野帳と部材番付札の整合性獲得に利用可

②部材の収納保管場所の明確化



③部材の整合性確保

